

iiyama



AQU5611D BK
AQU5611DT BK 920万画素 超高精細
カラーTFT液晶モニタ
取扱説明書

電波障害自主規制届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

第 1 版 2002年 7月

このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。

© Copyright IIYAMA CORPORATION 2002. All rights reserved.

はじめに

このたびは、AQU5611D BK/AQU5611DT BK 920万画素 超高精細カラー TFT液晶モニターをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、AQU5611D BK/AQU5611DT BK 920万画素 超高精細カラー TFT液晶モニター（以降、モニターと呼びます）をご使用になるための準備、モニターの取り付け、モニターの調節、また問題が起きた場合の対処方法などについて説明します。

本書は次のように構成されています。

- 第1章、『導入の準備』では、モニターを使用するうえで必要となるシステム構成と製品の確認方法について説明しています。
- 第2章、『モニターの取り付け』では、モニターの各部の名称、モニターをパーソナル・コンピュータまたはWorkstationに接続する方法、モニターを電源に接続する方法、および注意事項について説明しています。
- 第3章、『モニターの使用方法』では、モニター画面の調節方法、ユーザー設定、LEDランプによるモニターの状態、およびモニターの保護について説明しています。
- 第4章、『問題が起きたら』では、問題が起きた場合の対処方法を説明しています。

商標

iiyamaロゴは、株式会社イーヤマの登録商標です。

ATIおよびFireGLは、ATI Technologies Inc.のカナダ、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

TMDSは、Silicon Image Incorporatedの商標です。



"Windows"は、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

安全に正しくお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくご使用いただくための安全表示について記述されています。本書をお読みになり、注意事項を必ずお守りください。お読みになったあとは保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

本書および本製品への安全表示については、製品を正しくご使用いただいて、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示を使用しています。その表示の意味は次のようになっています。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険 / 注意ラベルの表示について

この製品の外部または内部に、黄色地に黒文字で表示されているラベルがある場合は、安全上に関しての、「危険」または「注意」ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。本書に記述されている以外に、「危険」または「注意」ラベルによる表示がある場合は（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

危険

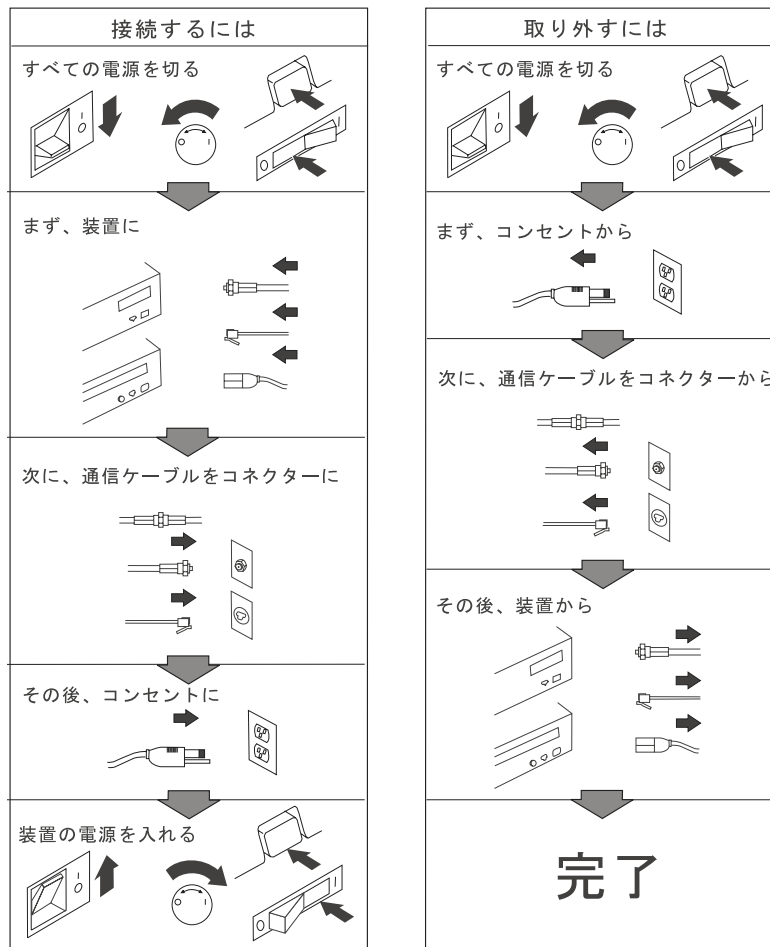
- 本製品のカバーは、本書で指定されたカバー以外は開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。
- 本製品を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。
- AC 100V ~ 240V以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。
- 電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品は壊れることがあり、電気による危険を招くことがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。
- 電源プラグを容易に抜き差しできる場所にある電源コンセントをご使用ください。
- 電源コードは必ず付属の物を使い、接地端子付き（3ピン）コンセントに差し込んでください。また、他の電源コード等を使用したり、付属の電源コードをほかの装置に使用したりすると、火災、感電のおそれがあります。
- 電源プラグが2つある場合は、電源の供給元が同じ電源コンセントに接続してください。

- コンピュータの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、テレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。
- 万一、異常に発熱している、煙が出ている、異常な音がする、変な臭いがするなどの異常な状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから必ず抜いて、販売店またはイーヤマサービスセンター (31ページを参照) にご連絡ください。
- 万一、異物 (金属片、水、液体) が製品の内部に入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから必ず抜いて、販売店またはイーヤマサービスセンター (31ページを参照) にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

⚠危険

- ケーブル類の接続、取り外し順序

電源コードおよび通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。感電の危険を避けるために、製品または接続装置を設置、移動、または製品のカバーを開けたり装置を接続したりするときには、下記のようにケーブルの接続および取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続および取り外しをしないでください。

⚠️注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ずプラグを持って抜いてください。）
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
- モニタ画面に強い圧力を加えないでください。液晶ディスプレイ（LCD）が割れることがあります。
- 指でモニタ画面に直接触れないようにしてください。皮膚からの油分は拭き取りにくくなります。
- 本製品の上に何も置かないでください。
- この製品の通気孔をふさがないでください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 本製品を持ち上げたり、移動したりするときは、思わぬ怪我をしないように注意してください。重すぎるときは、ほかの人の応援を頼んでください。
- 連休などで長期間使用しないときは、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

液晶ディスプレイについて

液晶ディスプレイ（LCD）はガラス製なので、製品を乱暴に扱ったり倒したりすると壊れることがあります。LCDが壊れて内部の液体が目に入ったり、手についたりした場合は、すぐに水で15分以上洗ってください。その後、何らかの症状が現れた場合は、医師の診断を受けてください。

LCD内の蛍光灯の中には水銀が含まれています。ごみ廃棄場で処分されるごみの中にLCDを捨てないでください。LCDの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。なお、リサイクル/廃棄については、イヤマサポートセンター（31ページを参照）にお問い合わせください。

適切な文字の大きさに設定してからご使用ください

本モニタは、一般的なモニタに比べて画素の面積がおよそ4分の1という超高精細なモニタです。したがって、一般的なモニタ用に設定したシステムに接続すると、文字やアイコン、グラフや写真などがすべて約4分の1の大きさで表示されます。そのままの設定で小さな文字や細かい情報を見続けたり、短い視距離で利用したりすることは避けてください。

設定は、オペレーティング・システムまたはアプリケーション上で表示容量（解像度）の設定を変更することができます。

モニタの配置について

- モニタを配置するとき、モニタは使用者の真正面に置いてください。
- モニタは、見やすい距離をとって配置してください。通常、目の位置から50～60センチ離して置きます。
- 画面の最上部が目の高さになるか、または目の高さより少し下になるようにモニタを配置してください。
- 頭上の照明、窓、その他の光源ができるだけモニタ画面に映りこまないように、モニタの角度や傾きを調節してください。必要に応じて、照明を消したり、ワット数の低い電球にして頭上の照明を暗くしてください。窓の近くにモニタを置くときは、カーテンかブラインドをして、日光を遮ってください。
- 画面の輝度を調節してください。
- 背中がきちんと支えられる椅子を使い、なるべく深く腰掛けてください。
- 画面を長時間見ると、目が疲れたり、疲労の原因となります。頻繁に休憩をとったり、定期的にも上を見たり、遠くにある物を見たりしてください。

目次

はじめに	iii
商標	iii
安全に正しくお使いいただくために	v
絵表示について	v
危険 / 注意ラベルの表示について	v
第1章 導入の準備	1
必要なシステム構成	1
製品の確認	1
第2章 モニタの取り付け	3
各部の名称	3
モニタのセットアップ	4
コネクタ・ツールの収納	4
ケーブルの接続	6
第3章 モニタの使用法	11
モニタ画面の調節	11
ユーザー設定	12
OSD設定	13
LEDランプ	17
ケーブルの取り外し	18
モニタの保護	20
ロック機能の使用	20
日常のお手入れ	20
第4章 問題が起こったら	21
付録A. 製品仕様	23
画面モード一覧	24
パラメーター (EDID) の設定	25
適用モデル	25
ファームウェアのバージョン確認と設定値の変更	25
設定番号	28
付録B. 部品表	29
保証書	31

第1章 導入の準備

この章では、モニタを使用するうえで必要となるシステム構成、および製品の確認について説明します。

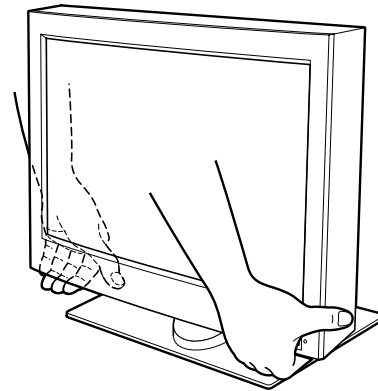
必要なシステム構成

モニタを使用するにはDual DVI outputのビデオ・グラフィクスカードが導入されているパーソナル・コンピュータまたはWorkstation（以降、コンピュータと呼びます）が必要です。

注： 最新の情報については、Webサイト <http://www.iiyama.co.jp> を参照してください。動作確認されていないカードを導入することによって生じる損傷および損害については、お客様の責任で行っていただきます。イーヤマでは、その機能、品質、性能についての言及、評価、保証は行いません。

製品の確認

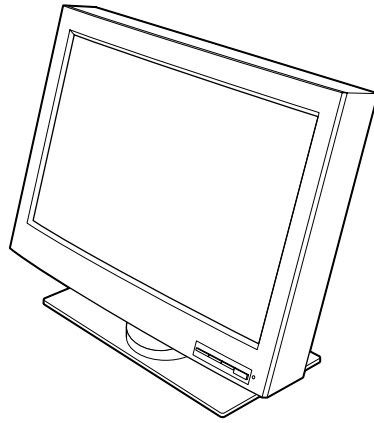
- 1 モニタを箱から取り出すとき、または移動するときは、図のように画面の下部を両手で持つようにしてください。



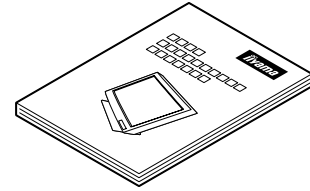
本製品は精密機器ですので、ていねいに取り扱ってください。万一、製品に不足があったり、輸送中に起きたと思われる損傷がある場合は、お手数ですがイーヤマサポートセンター（31ページを参照）にご連絡ください。

2 次のものがそろっているか確認します。

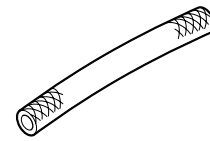
□ モニタ



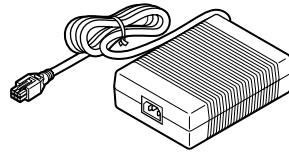
□ 取扱説明書（本書）



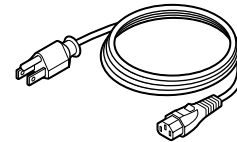
□ コネクター・ツール



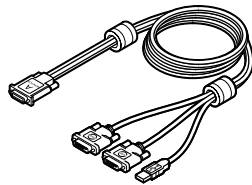
□ ACアダプタ



□ 電源コード



□ デジタル信号ケーブル



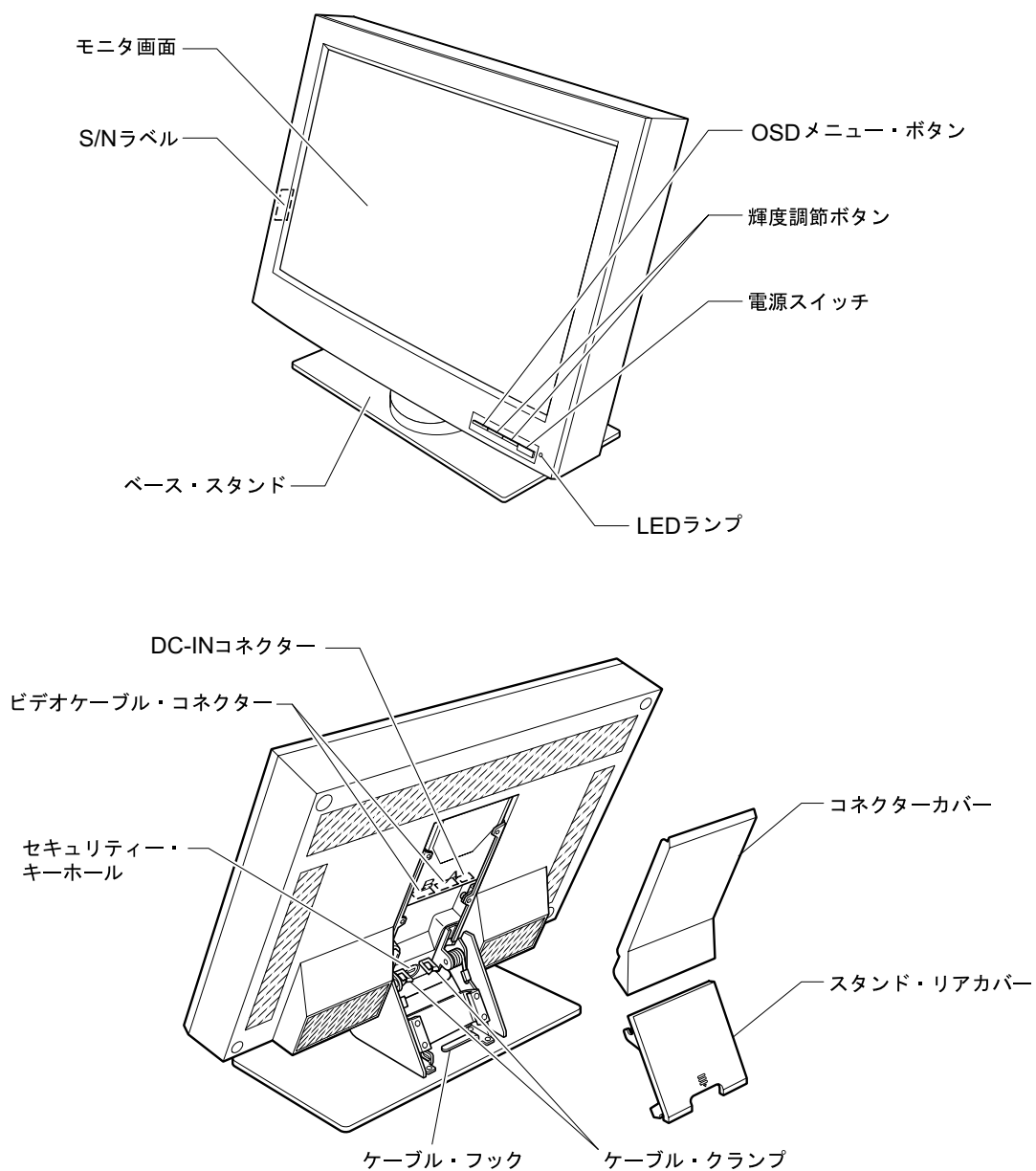
注： デジタル信号ケーブルは、モニタに接続された状態で梱包されています。

P/N: 07N2227

第2章 モニタの取り付け

この章では、モニタのセットアップ方法について説明します。

各部の名称



モニタのセットアップ

ここでは、モニタのセットアップ方法について説明します。初めに、製品に付属のコネクター・ツールを紛失しないようにモニタの内部に収納し、そのあとケーブルの接続を行います。コネクター・ツールは、デジタル信号ケーブルの取り外し、または再接続が必要な際に使用します。

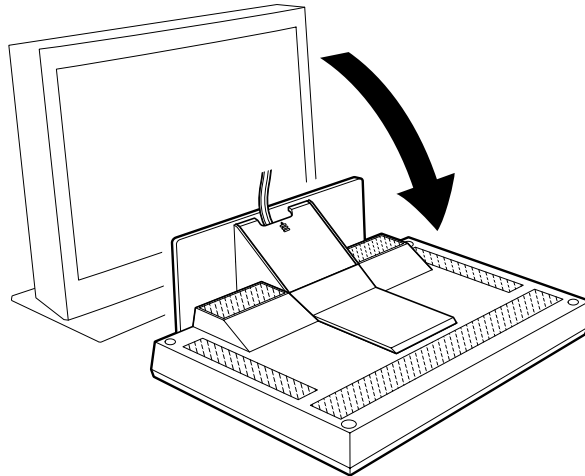
コネクター・ツールの収納

ここでは、コネクター・ツールをモニタに収納する方法について説明します。

重要

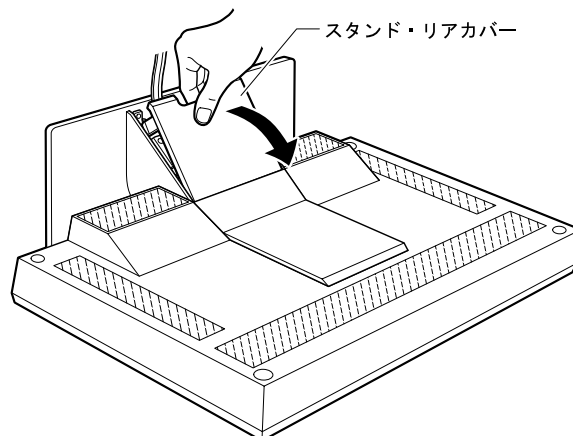
モニタ本体を倒すときは、厚みのある柔らかい布などを敷いた広い机またはテーブルなどの上で行ってください。また、モニタ画面の下側には鉛筆やクリップなどの固い物を置いたり、強い衝撃を与えたりしないでください。モニタが損傷するおそれがあります。

- 1 モニタ画面が下向きになるようにモニタ本体をゆっくりと倒します。

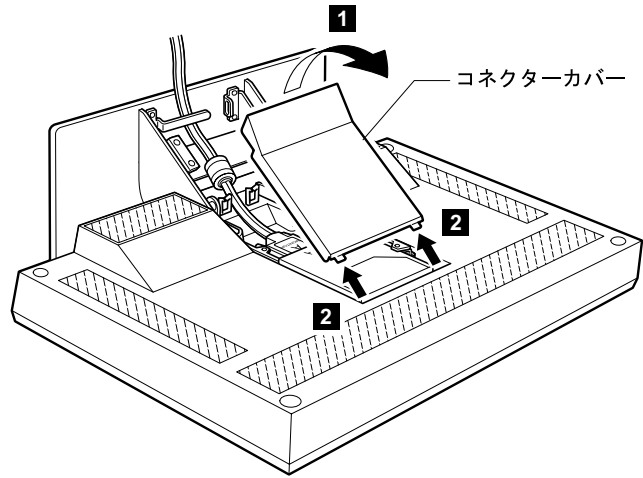


注: モニタ本体を倒すときに、指をはさんだり手を痛めたりしないように注意してください。

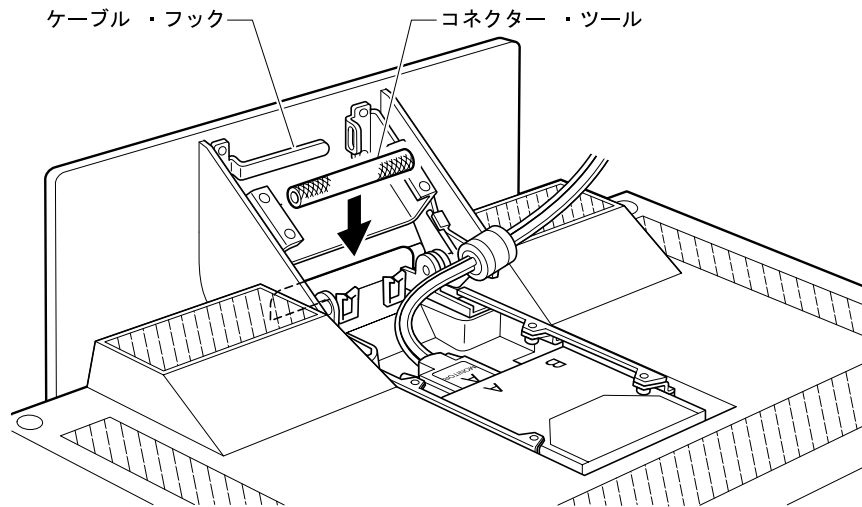
- 2 次にスタンド・リアカバーを取り外します。



3 モニタ背面のコネクターカバーを図のように取り外します。



4 デジタル信号ケーブルをモニタのケーブル・フックから外して、図のようにコネクター・ツールをモニタの中に入れます。



ケーブルの接続

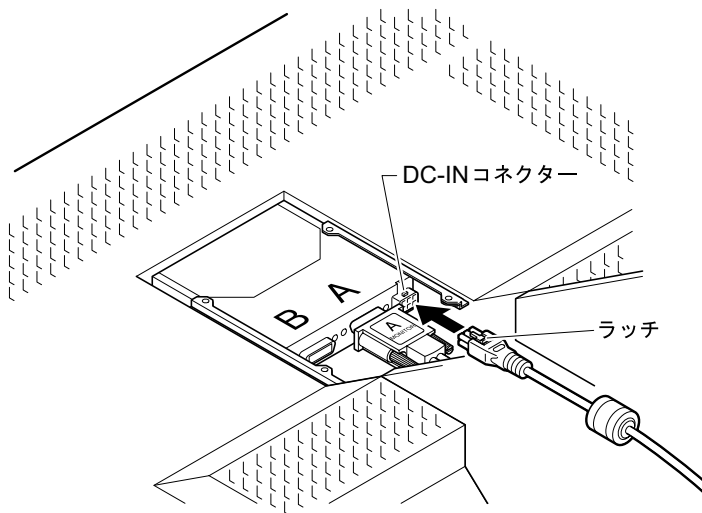
ここでは、モニタにACアダプタを接続する方法、モニタとコンピュータをデジタル信号ケーブルで接続する方法、およびモニタを電源に接続する方法について説明します。

ACアダプタの接続

モニタにACアダプタを接続するには、次の手順に従ってください。

- 1 ACアダプタをモニタのDC-INコネクタに接続します。接続するとき、カチッと音がするまでしっかりと差しこんでください。

モニタ背面を下側から見た図

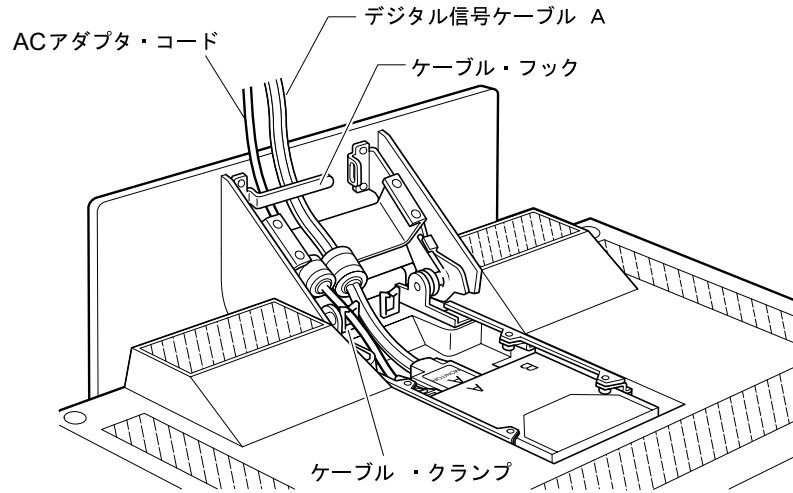


注: モニタからACアダプタのコネクターを抜くときは、ラッチを押しながら引き抜いてください。

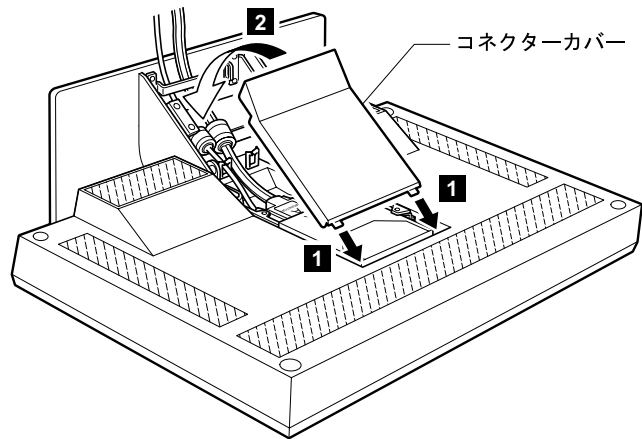
補足

モニタ背面にあるビデオケーブル・コネクター A および B はSELV (Safety Extra Low Voltage) 回路に対応するコネクターです。

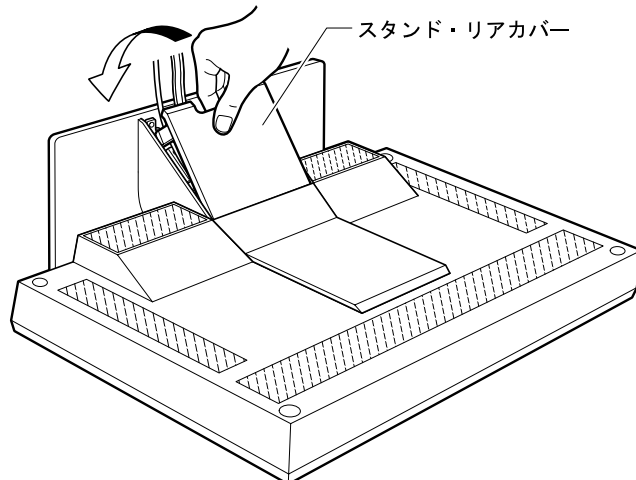
- 2 ACアダプタのコードをケーブル・クランプとケーブル・フックに掛け、デジタル信号ケーブルの A をケーブル・フックに掛けます。



- 3 図のようにモニタ本体にコネクタカバーを取り付けます。



- 4 次にスタンド・リアカバーを取り付けて、モニタを起こします。



デジタル信号ケーブルの接続

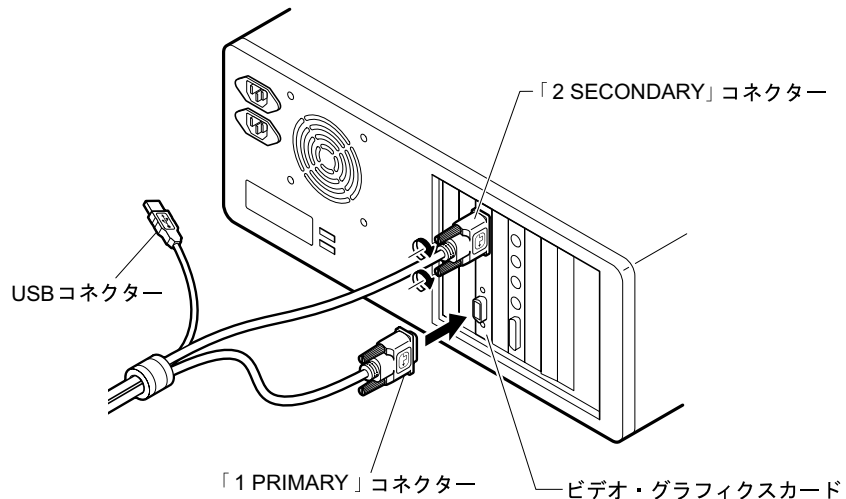
モニターとコンピュータをデジタル信号ケーブルで接続するには、次の手順に従ってください。

注:

1. コンピュータにビデオ・グラフィクスカードが取り付けられていることを確認してください。
2. コンピュータの電源コードが電源コンセントから外れていることを確認してください。

1 モニターのデジタル信号ケーブルを、コンピュータのビデオ・グラフィクスカードに接続します。

デジタル信号ケーブルのコネクターに「1 PRIMARY」と表示されている方のコネクターを、ビデオ・グラフィクスカードの1番目のDVIコネクターに接続します。また「2 SECONDARY」と表示されているコネクターは、ビデオ・グラフィクスカードの2番目のDVIコネクターに接続します。



注:

- a. ビデオ・グラフィクスカードの種類によっては、DVIタイプのコネクターが1つだけのものもあります。その場合は、デジタル信号ケーブルのコネクターに「1 PRIMARY」と表示されている方のコネクターを、ビデオ・グラフィクスカードのDVIコネクターに接続します。「2 SECONDARY」と表示されている方のコネクターは、どこにも接続しないでください。
- b. USBの拡張機能を使用する場合は、あらかじめコンピュータに必要な導入を行い、デジタル信号ケーブルのUSBコネクターをコンピュータに接続する必要があります。拡張機能の詳細については、次のWebサイトの拡張機能に関する説明および補足資料の項を参照してください。

<http://www.iiyama.co.jp>

拡張機能を使用しない場合は、USBコネクターをコンピュータに接続しないでください。コンピュータに拡張機能を使用するための必要な導入を行わないままUSBコネクターを接続すると、コンピュータ、モニター、または他の周辺機器が作動しなくなるおそれがあります。

- c. モニタとコンピュータをデジタル信号ケーブルで接続しても、モニタを電源に接続するまではコンピュータの電源を入れないでください。
- d. コンピュータの電源を入れたままデジタル信号ケーブルの接続および取り外しを行うと、コンピュータまたはビデオ・グラフィクスカードが損傷するおそれがあります。
- e. ATI FireGL4ビデオ・グラフィクスカードをご使用になるお客様は、本製品の性能を最大限に引き出すために、デバイス・ドライバ Ver. 2078（またはそれ以降）をATI社の次のWebサイトからダウンロードしてお使いください。
<http://support.ati.com>

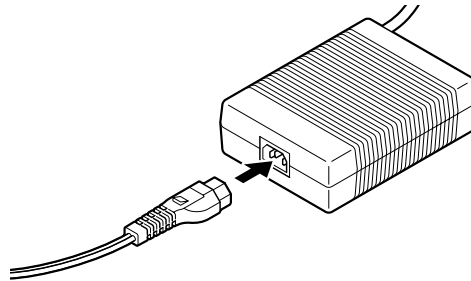
モニタを電源に接続する方法については、『電源の接続』を参照してください。

電源の接続

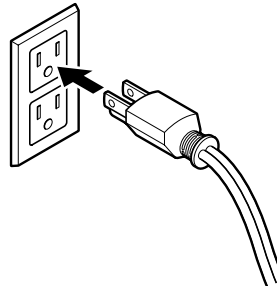
注： 電源を接続するまえに、vページの『安全に正しくお使いいただくために』を必ずお読みください。

ここでは、モニタを電源に接続する方法について説明します。

- 1 モニタの電源コードをACアダプタに接続します。



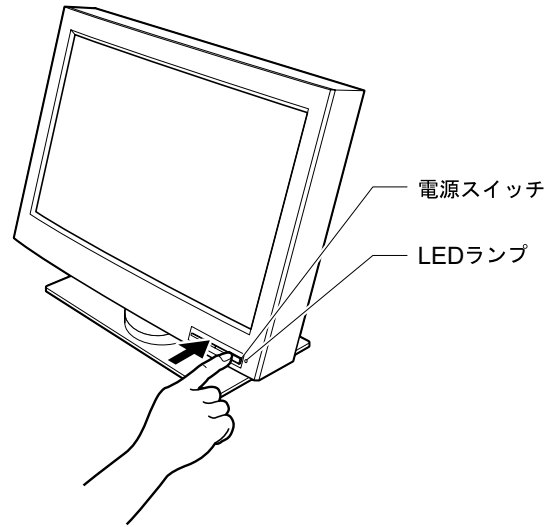
- 2 ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに接続します。



注： ACアダプタ、電源コード、および電源コンセントのすべてが正しく接続されていないと電源がオンの状態になりません。

- 3 コンピュータに電源コードを接続し、電源プラグを電源コンセントに差しこみます。

- 4** プッシュ式の電源スイッチを押してモニタの電源を入れます。電源が入ると、LEDランプが緑色に点灯します。



注:

1. 電源を切ってから次に入れるときは、5秒程度待ってから入れるようにしてください。
2. 電源を入れたあとに誤って電源コードを電源コンセントから抜いてしまった場合、電源コードを接続しなおして電源スイッチを押すと、モニタ画面がちらつくことがあります。このような場合には、モニタの電源スイッチを一度切ってから再び入れなおしてください。
3. LEDランプについて詳しくは、17ページを参照してください。

これで、モニタの取り付けは完了です。

補足

電源を入れる順番はモニタの電源を入れたあと、周辺装置、コンピュータの順に入れます。

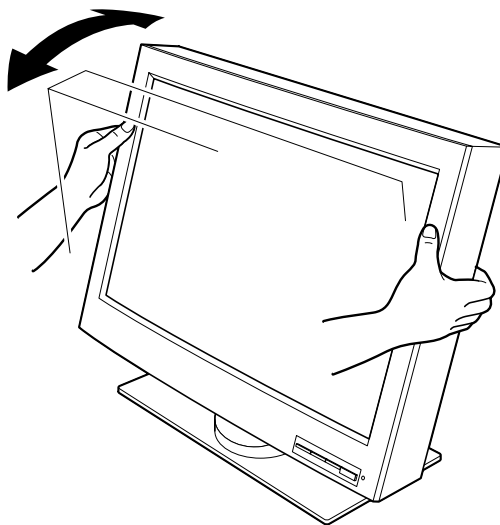
第3章 モニタの使用方法

この章では、次の内容について説明します。

- モニタ画面の傾き調節
- OSDメニューによるユーザー設定
- LEDランプによるモニタの状態
- ケーブルの取り外し方法
- ロック機能によるモニタの保護
- モニタのお手入れの仕方

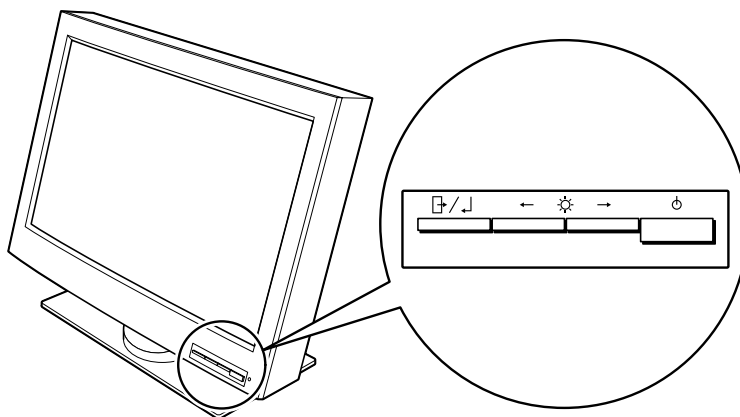
モニタ画面の調節

画面の傾きを調節したいときは、図のようにモニタの左右の端をつかみ前後に動かします。

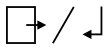





ユーザー設定



ユーザー設定には、画面の輝度を調節する機能、入力ビデオ信号を選択する機能、およびモニタの入力ビデオ信号の情報を表示する機能があります。これらの機能は、On-Screen Display（以降、OSDと呼びます）設定を呼びだし、モニタ画面に表示されたOSDメニューからモニタ画面の右下にある4つのボタンを操作してそれぞれの機能を設定することができます。

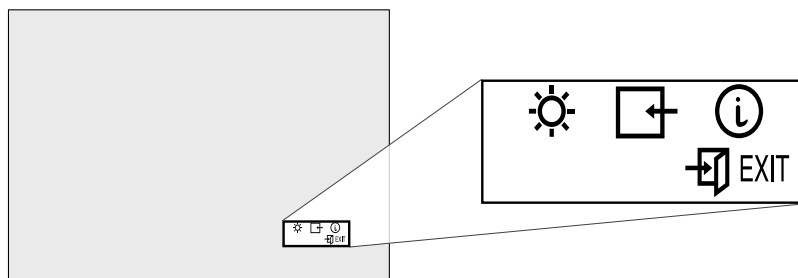


4つのボタンの機能は、次のとおりです。

ボタン	直接アクセス機能 ^(注)	OSDメニューの機能
	OSDメニューを表示します。 (メニュー・ボタン)	ハイライトされたメニューとオプションの選択
	画面の明るさを暗くします。 (輝度調節ボタン)	カーソルの移動または調節
	画面の明るさを明るくします。 (輝度調節ボタン)	カーソルの移動または調節
	モニタ電源のオンまたはオフ	
注: 直接アクセス機能とは、直接ボタンを押すことで設定する機能です。		

OSD設定



初めにメニュー・ボタン  /  を押して画面上にOSDメイン・メニューを表示させ、OSD設定を行えるようにします。

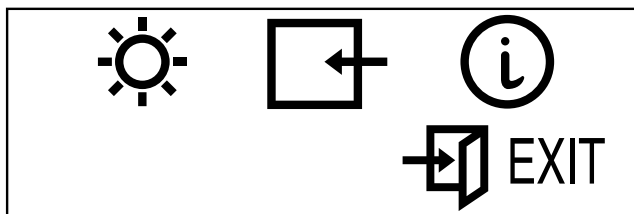






OSD設定は、次のメニュー画面で構成されています。

- メイン・メニュー
メイン・メニューから、サブメニューを選択をします。
- サブメニュー
サブメニューでは、次の機能を選択して実行します。
 - Brightness
 - Input
 - Information



メイン・メニュー

メイン・メニューを表示するには、モニタ画面の右下にあるメニュー・ボタン  /  を押します。





メニュー・アイコン	機能	説明
	Brightness (画面の明るさ調節)	画面の明るさを調節します。
	Input (ビデオ入力の表示)	モニタに入力されているビデオ信号のタイプを表示します。
	Information (入力ビデオ信号の情報表示)	モニタに入力されているビデオ信号の垂直周波数と解像度を表示します。
	Exit	OSDメニューから出ます。

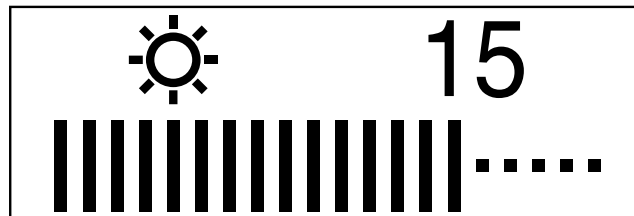
サブメニュー



サブメニューを表示するには、メイン・メニューが表示されている状態で、
← または → ボタンを押します。**Brightness**、**Input**、**Information**、または **Exit** を選択
(ハイライト)したあと、メニュー・ボタン  /  を押して選択された機能を実行しま
す。

Brightness (画面の明るさ調節)



- 1 メイン・メニューで ← または → ボタンを押して、**Brightness** を選択します。
- 2 メニュー・ボタン  /  を押します。

次の画面が表示されます。

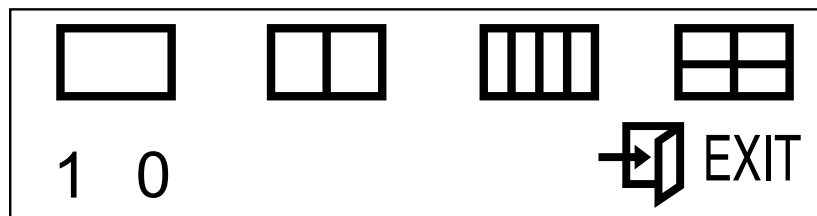


- 3 画面の明るさを ← または → ボタンで調節します。→ ボタンを押すと明るくな
り、← ボタンを押すと暗くなります。
- 4 メニュー・ボタン  /  を押して、メイン・メニューに戻ります。






Input (ビデオ入力の表示)

- 1 メイン・メニューで ← または → ボタンを押して、**Input** を選択します。
- 2 メニュー・ボタン  /  を押します。



次の画面が表示されます。



Inputのメニュー画面に表示されるアイコンと数字の意味は次のとおりです。

サブメニュー・アイコン	説明
	1種類のビデオ信号が入力されています。
	2種類のビデオ信号が入力されています。 (カラー・マネージメント機能は常に有効です。)
	ストライプに表示される4種類のビデオ信号が入力されています。 (カラー・マネージメント機能は常に有効です。)
	「田の字」形に表示される4種類のビデオ信号が入力されています。 (カラー・マネージメント機能は常に有効です。)
 EXIT	サブメニューから出ます。
1 または 0 (数字の左側)	<p>1 の場合: 入力モードが"□"のとき、カラー・マネージメント機能を有効にします。(初期値)</p> <p>注: カラー・マネージメント機能は入力モードが"□□"、"□□□"、または"田"のとき、数字の左側の設定値にかかわらず常に有効になります。</p> <p>0 の場合: 入力モードが"□"のとき、文字表示をスムーズにします。</p>
0 または 1 (数字の右側)	<p>カラー・マネージメント機能の設定を表示します。</p> <p>0 の場合: 初期設定値を使用しています。</p> <p>1 の場合: ユーザー設定値を使用しています。</p> <p>注: カラー・マネージメント機能の詳細については、下記Webサイトの拡張機能に関する説明および補足資料の項にある「カラー・マネージメント機能の使い方」を参照してください。</p> <p>http://www.iiyama.co.jp</p>

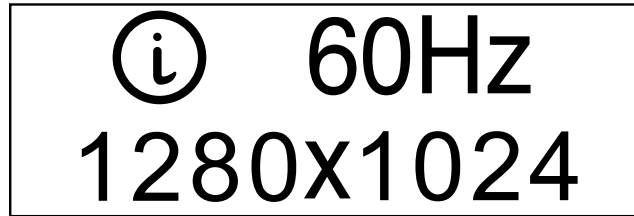
3 文字表示のスムーズ化またはカラー・マネージメント機能の選択を変更する(入力モードが"□"のとき)には、← ボタンを3秒以上押し続けます。

4 このサブメニューから出るには、EXIT を選択してメニュー・ボタン  /  を押します。

Information (入力ビデオ信号の情報表示)

- 1 メイン・メニューで ← または → ボタンを押して、**Information** を選択します。
- 2 メニュー・ボタン □ / ↓ を押します。

次の画面が表示されます。(画面は一例です。)



モニタに入力されているビデオ信号の垂直周波数と解像度を確認します。

- 3 このサブメニューから出るには、メニュー・ボタン □ / ↓ を押します。

Exit (OSDメニューから出ます)

- 1 メイン・メニューで ← または → ボタンを押して、**Exit** を選択します。
- 2 メニュー・ボタン □ / ↓ を押します。

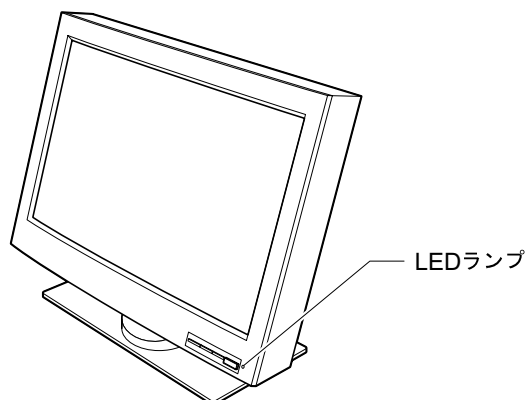
OSD設定をリセットする(工場出荷時の設定に戻す)には、次の操作を行います。

- 1 モニタの電源を切ります。
- 2 メニュー・ボタン □ / ↓ を押しながら電源スイッチを押します。

数秒間、LEDランプが緑と黄色の点滅を繰り返し、点滅が終了したらリセットは完了です。

LEDランプ

モニタの右下には、モニタの状況を示すLEDランプがあります。この節ではLEDランプの色と点滅が示すモニタの状況について説明します。



色	モード	消費電力	説明
緑	通常動作	150 W (最大)	モニタの電源が入っていて、コンピュータから同期信号の入力があるとき点灯します。
黄色	スタンバイ・モード	15 W (未満)	<ul style="list-style-type: none">モニタがスタンバイ・モードに入っています。またはデジタル信号ケーブルが正しく接続されていないため、モニタがスタンバイ・モードに入っています。 デジタル信号ケーブルが正しく接続されていない場合、モニタはスタンバイモードに入ります。詳しくは、21ページの第4章、『問題が起こったら』を参照してください。コンピュータから同期信号の入力がないとき、モニタはスタンバイ・モードに入ります。
黄色 (1秒間に4回点滅)	-	-	次の原因からモニタがエラー状態になっています。 <ul style="list-style-type: none">モニタ本体に内蔵されている冷却用のFANが故障して回転が止まっています。 詳しくは、第4章、『問題が起こったら』の22ページを参照してください。
黄色 (1秒間に1回点滅)	-	-	モニタに対応していない周波数が入力されています。

コンピュータがモニタの省電力機能を使用している場合、モニタはコンピュータからの信号でスタンバイ・モード(省電力モード)に入り、モニタのLEDランプが緑から黄色に変わります。

スタンバイ・モードでは、コンピュータを自動的に省電力モードにして電力を節約します。このとき、モニタには何も表示されません。キーボードまたはマウスが指定した時間内に使用されなかったとき、省電力機能が自動的に始動するように設定することができます。スタンバイ・モードに入るまでの時間については、コンピュータに付属する取扱説明書を参照してください。

ケーブルの取り外し

注意:

デジタル信号ケーブルは必ず部品番号 **07N2227** のものを使用してください。それ以外のものを使用すると、モニタまたはビデオ・グラフィクスカードの故障の原因になります。

デジタル信号ケーブルのお買い求めについては、イーヤマサポートセンター (**31**ページを参照) にお問い合わせください。

工場出荷時の本製品は、モニタにデジタル信号ケーブルが接続された状態で梱包されています。ここでは、モニタからデジタル信号ケーブルを含むケーブル類の取り外し方法について説明します。

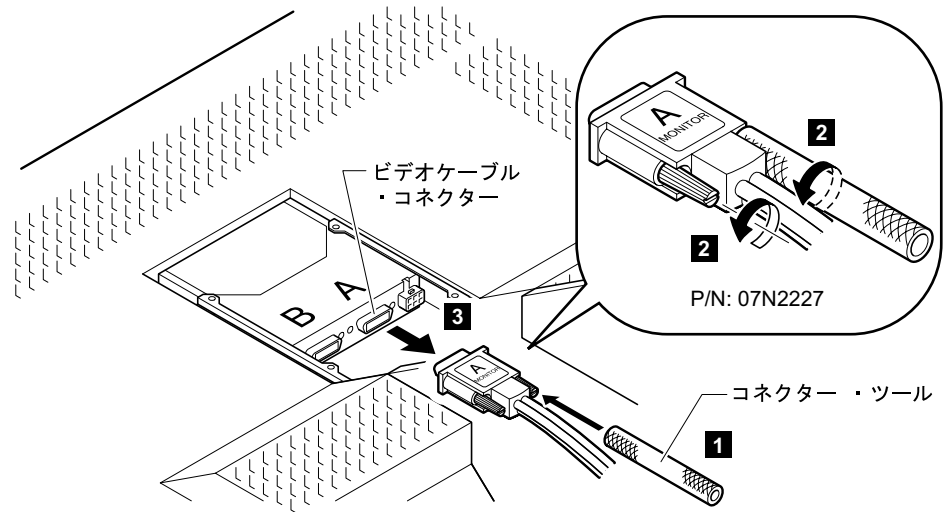
注: ケーブル類の取り外しを行うまえに、vページの『安全に正しくお使いいただくために』を必ずお読みください。

モニタからケーブルを取り外すには、次の手順に従ってください。

- 1** モニタ、周辺装置、およびコンピュータの電源スイッチを切り、電源コードを電源コンセントから外します。
- 2** モニタ画面が下向きになるようにモニタ本体をゆっくりと倒します。(4ページを参照。)
- 3** スタンド・リアカバーとコネクタカバーを取り外します。(4および5ページを参照。)
- 4** デジタル信号ケーブルをモニタのケーブル・フックから外し、ACアダプタのコードをケーブル・フックおよびケーブル・クランプから外します。(7ページを参照。)
- 5** 製品に付属のコネクタ・ツールをモニタ背面に収納している場合は、それを取り出します。(4ページの『コネクタ・ツールの収納』を参照。)
- 6** モニタのDC-INコネクタからACアダプタを取り外します。(6ページを参照。)

注: モニタからACアダプタのコネクタを抜くときは、ラッチを押しながら引き抜いてください。

- 7 デジタル信号ケーブルのコンネクターのつまみ部分にコンネクター・ツールを差しこみ **1**、ねじを緩めます **2**。
- 8 モニタのビデオケーブル・コンネクター A から、デジタル信号ケーブルを外します **3**。



補足

ビデオケーブル・コンネクター A はSELV (Safety Extra Low Voltage) 回路に対応するコンネクターです。

- 9 コンネクター・ツールをモニタ背面に収納します。(5ページを参照。)

モニタの保護

ここでは、モニタの盗難または不正使用を防ぐ方法について説明します。

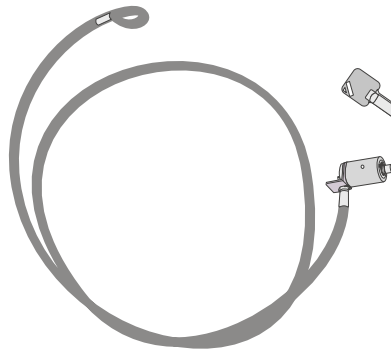
ロック機能の使用

モニタの不正使用防止のため、モニタにセキュリティー・システム・ロックを取り付けることができます。（セキュリティー・システム・ロックは本製品に付属していません。モニタに対応したものをご用意ください。）

ロックの鎖を安全で動かない物体に固定し、次に、セキュリティー・システム・ロックをモニタのキーホールにつなぎます。詳しくは、セキュリティー・システム・ロックに付属する取扱説明書を参照してください。

（セキュリティー・キーホールの位置は、3ページの『各部の名称』を参照してください。）

セキュリティー・システム・ロックの例



注：セキュリティー・システム・ロックとセキュリティー機能の評価、選択、実装は、お客様の責任で行っていただきます。イーヤマでは、その機能、品質、性能についての言及、評価、保証は行いません。

日常のお手入れ

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 本体のカバーやモニタ画面は、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めることがありますので使用しないでください。

第4章 問題が起こったら

この章では、モニタの使用中に問題が起きた場合の対処方法について説明します。

問題	原因と対処
画面に何も表示されない。	原因 1 モニタの電源が入っていません。または、ACアダプタおよび電源コードが正しく接続されていません。 対処 1 ACアダプタおよび電源コードが正しく接続されていることを確認し、モニタの電源スイッチを押してください。詳しくは、6ページの『ACアダプタの接続』および9ページの『電源の接続』を参照してください。
	原因 2 モニタが省電力モード（スタンバイ・モード）に入っているため画面に何も表示されません。 対処 2 キーボードのいずれかのキーを押すかマウスを動かすと、画面が再表示されます。詳しくは、17ページの『LEDランプ』を参照してください。
	原因 3 デジタル信号ケーブルが正しく接続されていません。（このとき、モニタはスタンバイモードに入り、LEDランプが黄色に点灯します。） 対処 3 モニタとコンピュータの電源をいったん切り、モニタのビデオケーブル・コネクタにデジタル信号ケーブルを正しく接続しなおしてください。接続したあとモニタ、コンピュータの順に電源を入れなおします。詳しくは、8ページの『デジタル信号ケーブルの接続』を参照してください。
	原因 4 デジタル信号ケーブルの接触不良か、またはケーブルのコネクタ・ピンが折れていたり、曲がっている場合があります。 対処 4 モニタに接続されているACアダプタの電源コードを電源コンセントから抜き、デジタル信号ケーブルを外してコネクタ・ピンが損傷していないかを確認してください。万一、コネクタ・ピンが損傷している場合は、お買い求めの販売店またはイヤマサービスセンター（31ページを参照）に連絡して修理を依頼してください。
	原因 5 ビデオ・グラフィクスカードに不具合があります。 対処 5 正常なビデオ・グラフィクスカードに交換してください。
	原因 6 コンピュータに不具合があります。 対処 6 正常なコンピュータに交換してください。

<p>画像が安定しない。</p>	<p>原因 1 コンピュータのビデオ・グラフィクスカードが正しく取り付けられていません。 対処 1 取り付け方法については、ビデオ・グラフィクスカードに付属する取扱説明書を参照してください。</p>
	<p>原因 2 デジタル信号ケーブルの接触不良か、またはケーブルのコネクタ・ピンが折れていたり、曲がったりしている場合があります。 対処 2 モニタに接続されているACアダプタの電源コードを電源コンセントから抜き、デジタル信号ケーブルを外してコネクタ・ピンが損傷していないかを確認してください。万一、コネクタ・ピンが損傷している場合は、お買い求めの販売店またはイヤマサービスセンター（31ページを参照）に連絡して修理を依頼してください。</p>
	<p>原因 3 スキャンング（走査）周波数の設定が許容範囲を超えています。 対処 3 ビデオ・グラフィクスカードの周波数を、モニタがサポートしている許容範囲内に変更してください。詳しくは、24ページの『画面モード一覧』を参照してください。</p>
	<p>原因 4 ビデオ・グラフィクスカードに不具合があります。 対処 4 正常なビデオ・グラフィクスカードに交換してください。</p>
	<p>原因 5 コンピュータに不具合があります。 対処 5 正常なコンピュータに交換してください。</p>
<p>画面が暗すぎる、または明るすぎる。</p>	<p>画面の明るさを輝度調節ボタンを使って調節します。詳しくは、12ページの『ユーザー設定』を参照してください。</p>
<p>LEDランプが黄色に点滅している。 （モニタ・エラー）</p>	<p>原因 1 LEDランプが1Hz（1秒間に1回の割合）で点滅している場合、モニタに対応していない周波数が入力されています。 対処 1 モニタとコンピュータの電源をいったん切り、モニタのビデオケーブル・コネクタにデジタル信号ケーブルを正しく接続しなおしてください。接続したあとモニタ、コンピュータの順に電源を入れなおします。詳しくは、8ページの『デジタル信号ケーブルの接続』を参照してください。</p>
	<p>原因 2 LEDランプが4Hz（1秒間に4回の割合）で点滅している場合、モニタ本体に内蔵されている冷却用のFANが故障して回転が止まっています。 対処 2 モニタの電源を入れなおします。それでもLEDランプが黄色に点滅している場合には、お買い求めの販売店またはイヤマサービスセンター（31ページを参照）に連絡してモニタの修理を依頼してください。</p>
	<p>原因 3 ビデオ・グラフィクスカードに不具合があります。 対処 3 正常なビデオ・グラフィクスカードに交換してください。</p>
	<p>原因 4 コンピュータに不具合があります。 対処 4 正常なコンピュータに交換してください。</p>
<p>画面上に少数の表示されないドットがある。また色の違うドット、または明るいドットが表示される。</p>	<p>液晶モニタは、2,700万個以上の薄膜トランジスター（TFT）で構成されています。画面上で少数のドットに欠落、変色、発光が見られることがありますが、これはTFT液晶技術に起因するもので、製品自体の欠陥によるものではありません。作業上の支障になるようなときは、お買い求めの販売店またはイヤマサービスセンター（31ページを参照）に問い合わせてください。</p>

付録A. 製品仕様

下表に、本製品の仕様を示します。

項目	仕様
外形寸法 (ベース・スタンドを含む)	幅: 547 mm 高さ: 439 mm 奥行: 196 mm (スタンドなし 105 mm)
重量	本体 (ベース・スタンド含む): 11.4 kg ACアダプタ: 1.3 kg
ベース・スタンド	傾き調節範囲: -5° ~ $+30^{\circ}$
入力電圧 (ACアダプタ)	100 ~ 240 V ac 50/60 Hz
消費電力 (最大)	150 W
消費電力 (スタンバイ・モード時)	15 W 未満
ビデオ入力	TMDS™ インタフェース (RGB 各 8 bit)
ユーザー・コントロール	電源オン/オフ、輝度調節
適合規格	<ul style="list-style-type: none">• CE Mark• CISPR 22 A• EN 60950• FCC-A• IEC 60950• ISO 13406-2• TCO'95 (AQU5611DT BKのみ)• TÜV Ergonomics• TÜV GS• UL/CSA 60950• VCCI-A
応答時間	62 ms (ISO 13406-2で定義されるImage formation time)
表示範囲	水平: 478.1 mm 垂直: 298.8 mm
稼働環境	<ul style="list-style-type: none">• 温度 パワーオン状態: 0 ~ 35 パワーオフ状態: -20 ~ 60• 相対湿度 パワーオン状態: 8 ~ 80 % (結露なしの状態) パワーオフ状態: 5 ~ 95 % (結露なしの状態)

画面モード一覧

下表は、本製品がサポートしている表示画素数とビデオ信号を示しています。

入力表示画素数 (H×Vドット)		DVI入力	水平周波数 (KHz)	垂直周波数 (Hz)	クロック (MHz)	実際の表示画素数 (H×Vドット)
VGA	640×400	ch1	31.5 (N, P)	59.9 (N, P)	25.2	3200×2000
	640×480	ch1	37.9 (N, P)	72.8 (N, P)	31.5	3200×2400
	640×480	ch1	37.5 (N, P)	75.0 (N, P)	31.5	3200×2400
	640×480	ch1	43.3 (N, P)	85.0 (N, P)	36.0	3200×2400
SVGA	800×600	ch1	35.2 (P, N)	56.3 (P, N)	36.0	3200×2400
	800×600	ch1	37.9 (P, N)	60.3 (P, N)	40.0	3200×2400
	800×600	ch1	48.1 (P, N)	72.2 (P, N)	50.0	3200×2400
	800×600	ch1	46.9 (P, N)	75.0 (P, N)	49.5	3200×2400
	800×600	ch1	53.7 (P, N)	85.1 (P, N)	56.3	3200×2400
XGA	1024×768	ch1	48.4 (N, P)	60.0 (N, P)	65.0	3072×2304
	1024×768	ch1	56.5 (N, P)	70.1 (N, P)	75.0	3072×2304
	1024×768	ch1	60.0 (P, N)	75.0 (P, N)	78.8	3072×2304
	1024×768	ch1	68.7 (P, N)	85.0 (P, N)	94.5	3072×2304
SXGA	1280×1024	ch1	64.0 (P, N)	60.0 (P, N)	108.0	2560×2048
	1280×1024	ch1	80.0 (P, N)	75.0 (P, N)	135.0	2560×2048
UXGA	1600×1200	ch1	75.0 (P, N)	60.0 (P, N)	162.0	3200×2400
UXGA-Wide	1920×1200	ch1	50.3 (N, P)	40.9 (P, N)	127.2	3200×2400
QUXGA-Wide	(960×2400)×4	ch1, ch2, ch3, ch4	99.2 (P, N)	40.9 (P, N)	104.8	3840×2400
	(1920×1200)×4	ch1, ch2, ch3, ch4	49.6 (P, N)	40.9 (P, N)	104.8	3840×2400
	(1920×2400)×2	ch1, ch2	61.2 (P, N)	25.1 (P, N)	125.0	3840×2400
	(1920×2400)×2	ch1, ch2	58.7 (P, N)	24.1 (P, N)	120.0	3840×2400
	(1920×2400)×2	ch1, ch2	48.9 (P, N)	20.1 (P, N)	100.0	3840×2400
	3840×2400	ch1	31.5 (P, N)	13.0 (P, N)	129.0	3840×2400
	3840×2400	ch1	30.73 (N, P)	12.66 (P, N)	148.0	3840×2400

注:

1. (N) と (P) は、それぞれ入力信号の極性“-”と“+”を示します。
2. ご使用になるビデオ・グラフィクスカードによって適用される解像度は異なります。

パラメーター (EDID) の設定

モニターでは、OSDメニューでEDIDという設定値を変更することができます。通常は、設定値を変更する必要はありませんが、モニターを駆動するビデオ・グラフィクスカードを交換するときだけ変更してください。

注： 誤った操作をしたり、正しくない設定値を使用したりすると画面に何も表示されなくなることがあります。

適用モデル

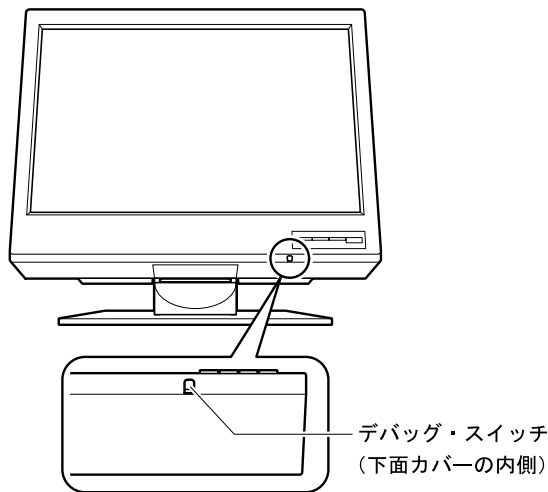
次のバージョンのファームウェアをもつ、すべてのモデルで設定値の変更が可能です。

DDC CPU	バージョン 3.2 以上
OSD CPU	バージョン 5.0 以上
USB CPU	バージョン 4.0 以上
FPGA LOGIC	バージョン 34 以上

ファームウェアのバージョン確認と設定値の変更

1. モニターの準備をします。
 - a. モニターとPCをデジタル信号ケーブルで接続します。
 - b. モニターおよびPCの電源を入れ、画面が安定するまで数分間待ちます。モニターの電源ランプが緑色に点灯していることを確認します。

もし、電源ランプが黄色のまま点灯している場合は、棒状のものでデバッグ・スイッチを押してモニターの電源を入れてください。



下から見た図

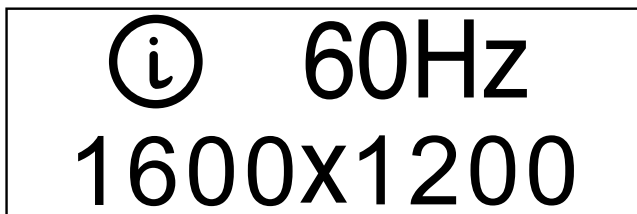
注意:

デバッグ・スイッチを押すときは導電性のものは使用しないでください。モニター内部の電気回路が破損するおそれがあります。またデバッグ・スイッチを押すと電源ランプは黄色に点滅し、PCからの画面イメージは出力されません。ただしカラー・テストパターンが画面に表示されることがあります。

2. OSD特殊メニューを表示します。

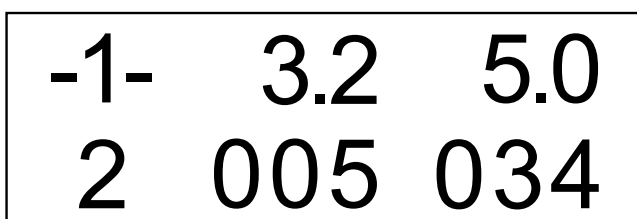
- a. メニュー・ボタン \square/\downarrow を押してから、 \leftarrow または \rightarrow ボタンで **Information** を選択し、再びメニュー・ボタンを押します。

周波数と解像度が表示されます。



- b. \leftarrow ボタンを3回押し、続いて \rightarrow ボタンを3回押します。

OSD特殊メニューが表示されます。



ファームウェアのバージョンは、下記の順序で表示されます。

-1- aaa bbb
c ddd eee

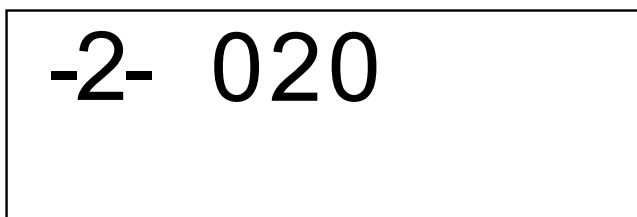
aaa: DDC-CPU
bbb: OSD-CPU
c: (無視してください)
ddd: USB-CPU
eee: FPGA-LOGIC

特殊メニューが表示されない場合は、手順 2a からやりなおしてください。

3. 現在の設定値を確認します。

- a. \leftarrow または \rightarrow ボタンを押して、特殊メニューの2ページ目の画面を表示します。

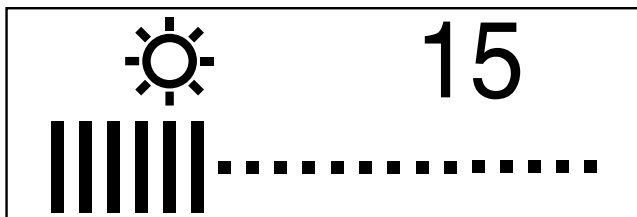
5秒経過したあと、現在の設定が表示されます。



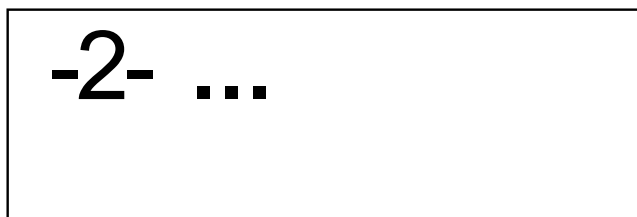
番号が000の場合は、不明の設定値が入っていることを示しています。また63より大きい場合、または番号に“x”が付いている場合はエラーが起きているため、手順 3 を再度行ってください。番号の詳細は、28ページの『設定番号』を参照してください。

4. 設定値を変更します。

- a. 使用する設定番号を確認します（28ページの『設定番号』を参照）。
- b. 輝度を設定番号に合わせます。この場合輝度の数字は、設定番号を指定するためだけに使用されます。また特殊メニューに入ったあとは、輝度の数字は0から63まで変更できるようになります。（輝度の変更については、14ページの『Brightness（画面の明るさ調節）』を参照してください。）



- c. OSD特殊メニューの1ページ目の画面に戻ります。
- d. ← または → ボタンを押して2ページ目の画面を表示したあと、すぐに ← と → ボタンを同時に押して下図のように“...”が表示されるまでボタンを押し続けます。（“...”は、モニタが設定値の変更を開始したことを示しています。）



- e. 5秒後に、変更された設定番号が表示されます。希望の番号がここで表示されているかどうかを確認してください。もし異なる場合は、初めから操作をやりなおしてください。28ページの『設定番号』に記述されていない番号は使用することができません。また、表示された番号に“x”が付いている場合も、何か問題が起きていることを示しているので初めから操作をやりなおしてください。
- f. OSD特殊メニューから抜けるため、モニタの電源を切ります。

重要事項

電源を切ったPCにモニタが接続されているか、またはモニタの画面解像度が変化しているとき、本設定の読みだしまたは変更はできません。

本設定番号は、OSDを初期化しても出荷時の状態には戻りません。出荷時の状態に戻すには、次の設定番号を使用してください。

AQU5611D BK, AQU5611DT BK: 設定番号29

設定番号

DDC-CPUバージョン 3.2は、下表の設定値の検出・書きこみを行うことができます。そのほかの設定値は 000（不明）として表示されます。ご使用のオペレーティング・システムとビデオ・グラフィクスカードを確認し、下表から設定番号を選択してください。

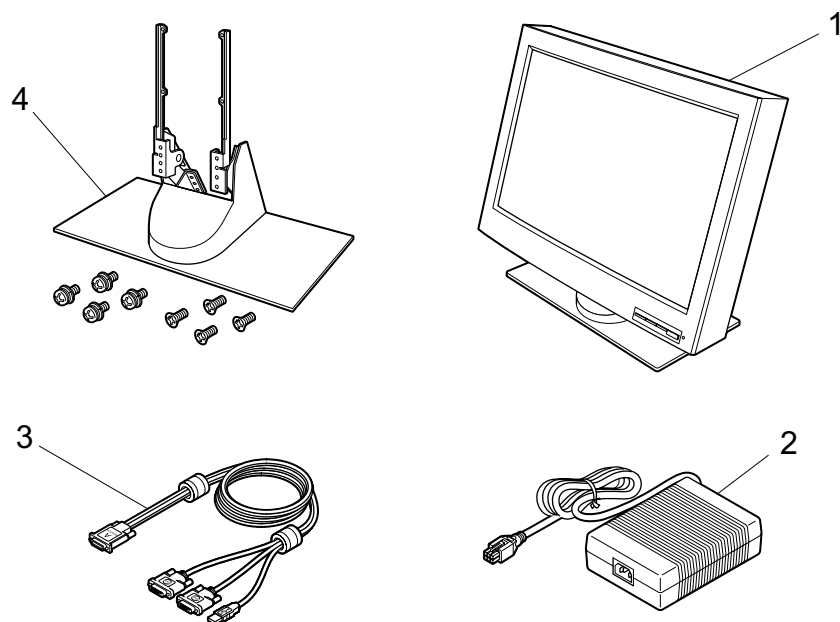
注： 対応可能な設定番号はDDC-CPUのバージョンに依存します。最新の番号については、次のWebサイトを参照して確認してください。

<http://www.iiyama.co.jp>

なお、下表に記載されているビデオ・グラフィクスカードでも、そのすべての機能が本製品でサポートされているわけではありません。

設定番号	対応モデル	説明
07	–	予約（使用しないでください。）
08	–	予約（使用しないでください。）
09	–	予約（使用しないでください。）
10	–	予約（使用しないでください。）
12	–	予約（使用しないでください。）
13	–	予約（使用しないでください。）
20	–	予約（使用しないでください。）
27	–	予約（使用しないでください。）
29	AQU5611D BK, AQU5611DT BK	ATI-FireGL用 (Windows®)
30	–	予約（使用しないでください。）
31	–	予約（使用しないでください。）

付録B. 部品表



下表に本製品のFRU番号と部品番号を示します。

索引	部品	FRU番号	部品番号
1	モニタ本体 (AQU5611D BK)	55P4230	55P4233
	モニタ本体 (AQU5611DT BK)	55P4237	55P4238
2	ACアダプタ	07N2245	07N2277
3	DVI用デジタル信号ケーブル	55P0995	07N2227
4	ベース・スタンド (取り付け用ねじ8本を含む)	07N2196	07N1183